

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

ホームページ <http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/>

E-mail funaobog@gmail.com

●印刷 (株)サラト

姫路市北条宮の町172番地

TEL 079-284-1380

題字／小原天籟先生



平成27年度 校内陸上競技大会

母校はいま

母校に着任して四年目になります。そのときに定年まであと四年でしたので今年度が最後の一年です。

昭和四十九年三月に卒業し、その後教員となり、いつか母校の教壇に立ちたいと思いつつ、四十年近い年月を経て夢がかないました。感慨深いものがあります。もともと、四十歳前後のときならまた違った感情をもったかもしれませぬ。同期が二名、他にも同窓生が十名余りいることに少し安心したことを思い出します。

新たに新館やセミナーハウスなど当時なかった建物もあり随分と変わりましたが、本館、南館、体育館などは外観はほぼ当時のままで、懐かしさを与えてくれました。

さて、生徒から教員へと立場が変わり現在の船高、船高生に思うことをあげてみます。

私立高校の進学実績が飛躍したといわれるようになって久しいところですが、県内トップクラスの公立高校といえども、うかうかしてられないことはもちろん、進学指導重点校に名を連ねる本校といえども進学実績を上げることが大変重要な課題となっております。とくに、難関私大や国公立大に合格するためには単に受験テクニックを教えるのではなく、学問の根幹となることを授業を通して指導し、生徒の知的好奇心を呼び起こす必要があります。実際、生徒の進路希望のことを考え、それに対応した補習等を長期休業中はもちろんのこと、朝や放課後、土曜日などに実施しています。これは私が在学している頃には考えられなかったことです。ただ、ひとつ気になるのは、時代の変化、社会や保護者の要請の変化なのでしょうが、生徒への

対応がややきめ細やかになり過ぎていないかという事です。どこか子供扱いし過ぎてはいないか、もった大人として扱っていいところがあるてもいいのではないかと思うこともよくあります。

生徒に目を向けると、船高生は実に色々なことに一生懸命取り組んでいると感じます。学習活動はもちろんのこと、部活動の加入率は百パーセントを超え（これは複数の部を兼部していることによる）、それ以外にもSSHや課外活動、学校行事など私の在学当時と比べてみても凄いいことだと思っています。そのことは良いのですが、皆が皆素直で真面目で、何か壁にぶつかったときにはね返されてしまうのではないかとこの脆さを感じることがもあり、雑草のような逞しさと、精神的な強さをもって欲しいと願っています。

私自身の巡り合わせが悪いのか、入学前に五十周年、退職後に百周年という船橋高校の節目に直接立ち会うことはできませんが、船高、船高生のためにはできるとに精一杯頑張ることが恩返しであると考えています。

千葉県立船橋高校教諭 堀 浩
平成24年4月着任昭和49年卒

同窓生 & 在校生 (平成27年10月1日現在)

同窓会会員総数 32,974人

名簿登録数 32,638人

内全日制26,550人、定時制5,052人、恩師1,036人

在校生

全日制 男605人 女455人 計1,060人

定時制 男149人 女 97人 計 246人

教職員 全日制83人 定時制31人 計114人

内同窓生14人



会長挨拶

同窓会会長
子安啓司 (昭和43年生)

光陰矢の如しと申しますが、同窓会長として、もう皆様をお願いを申し上げる時期となりました。日月の早さを実感している昭和43年卒業の子安啓司です。

政治問題のコメントは同窓会だよりにふさわしくありませんので、触れませんが「戦争が廊下の奥に立つてゐた…渡邊白泉」にはなつてもういたくありません。シリア内戦からの大量のヨーロッパ各国への避難民問題など聞くにつけ、つくづく平和の尊さを感じます。

さて、クールな招致活動等で決定となった東京オリンピックですが、新国立競技場建設計画見直し、エンブレムコンペやり直しと続き、開催まであと幾ら税金の無駄遣いがあるのか危ぶまれます。その開催年2020年5月15日が、母校の100周年に当たります。

記念式典をいつ行うかの具体的日時場所、内容は1年ほど前に学校が決定していく事となります。又、記念誌の発行は、記念式典等の内容を入れて翌年の発行にしたいと思います。記念事業や募金方法等につき議論を始め、昨年来より提案をお願いしているところでありますが、他高例を検討すると、県立高校100周年主要事業として『記念碑の建立、記念式典の実施(楽器購入)、部活動整備他』の内容で寄付金控除「所得税控除」の募金とした平成18年神奈川県立中央農業高等学校。教育環境整備を促進するため神奈川県に設置された基金により「多目的施設として多人数の生徒を収容できる大教室、卒業生・現役交流会の会場として卒業生・近隣住民も利用可能な「翠翔みらい館」を設置した神奈川県立横浜翠嵐高等学校もあります。創立125周年祝賀会兼同窓会総会を平成15年2月に行った千葉高では(1)トレーニングルームの寄贈 (2)教育助成 (3)記念館整備 (4)同窓会名簿の刊行 (5)記念祝賀会とあります。県立高校として難しいと考えられていた記念館や多目的スペースの寄贈も各方面のご理解とご協力



校長挨拶

校長 田山正人

があれば可能となつてきているようです。卒業生の出版物を寄贈頂きOBライブラリーを兼ねた、生徒・教職員・卒業生・近隣住民の利用も可能な多目的スペースの寄贈が出来ないかなど私案として思案中です。

皆様の幅広いご提案とご協力を頂き、新時代にふさわしい同窓会として、100周年を迎える記念事業が出来ればと存じます。よろしくお願ひします。

同窓生の皆様には、日頃、本校の教育活動に対し格別のご支援を賜りましてありがとうございます。この場をお借りして心からのお礼を申し上げます。

同窓会におきましては5年後の創立100周年に向けて、現在、準備を始めていただいているところですが、学校としても具体的な周年行事等の準備を開始する時期になってまいりました。このため、今後数年間は例年以上に同窓会の皆様と連携をとらせていただかなければならないと考えているところです。

高等学校の創立時期をどこに求めるかについては、いろいろな考え方がありますが。本校は大正9年(1915年)ですが、調べてみますと、それ以前に創立された県内の公立高校は32校だけでした。その中に農業や商業系が9校あり、工業系で最も歴史のある千葉工業高校が創立されたのは船高の2年後です。千葉市(千葉、千葉女子、千葉商業の3校)より北西部に位置する地域で、船高創立前に既にあった学校は印旛、松戸、清水の3校だけでした。すなわち、本県における歴史の古い学校は北東部や南部に多いということになるわけです。こうした学校の中には、現在までに校名が変わつたり、場所が移転したり、統合校となった高校が何校もあります。この100年という歳月は、社会の動きをもよく反映しています。船高の歴史もこうした世の中の動きとともに、これまで色

濃く反映したものであると思います。

船高における、この10年ほどの間にも大きな変革がありました。平成16年度からは県教育委員会指定の進学指導重点校として、生徒一人ひとりの自己実現が図れるよう、より一層の進路指導の充実を努めてきたところです。また、平成21年度からは文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクールとして本校理数教育の充実を図るとともに、小・中・高・大が連携した全県的なネットワークシステムの構築に向けて取り組んでいるところです。社会が変化していくことは不可避ですが、本校が、社会的に有為な人材の育成に努めていかなければならないことは、今後も変わらないものと考えます。

結びに、同窓会及び卒業生の皆様には、船高の更なる発展を目指すために、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓生の皆様それぞれの分野でますます活躍されることを心から祈念申し上げます。



着任のご挨拶

教頭 野崎一哉

四月に教頭として着任しました野崎と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

これまで、勤務してきました五校は、創立十年ほどの若い学校、あるいは創立五十年前後の中堅校でした。本校のようにまもなく創立百周年を迎える伝統校に勤務するのは初めてのことで、身の引き締まる思いで着任の日を迎えました。

このご挨拶を執筆するために担当の先生から渡された同窓会だよりを読んでいると、初任者として赴任した学校で指導いただいた当時の教頭先生のお名前を見つけ、たいへん懐かしく思い出されました。また、これまでの勤務校でも県船出身の先生方、県船で勤務していた先生方に幾人もお世話になつてきたことを考えると、どこかご縁があったのだなと思ひます。

この半年、生徒たちが、学習に、部活動に、行事に、たいへん積極的に活動する姿を見て、



伝統校のプライド

副校長 小室 いづみ

この四月に副校長として、定時に着任しました。同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

学問に励みたいと願う中学生とその保護者にとつて憧れの船橋高校勤務となり、責任の重さを実感しております。創立九十六年が過ぎ、百周年に向けて歩を進める全日制と共に、多くの有為な人材を輩出してきた本校定時制の課程も、昭和十八年の夜間部設置から七十二年が過ぎようとしています。この間、様々な事情を背負いながらも働き学ぶ学生を社会に送り出してまいりました。八月に行われた同窓会総会にて、定時制卒業生の皆様から声をかけていただき、その熱い思いに触れ、本当に嬉しく思っています。一人でも多くの人材を社会に羽ばたかせていく定時制の地道な使命を改めて実感しました。

さて、着任して最も印象に残っているのは、校歌の「ひねもすたゆまぬ努力の姿」の一節です。サトウハチロー作詞、山田耕筰作曲の校歌は、本校の宝物の一つでしょう。くじけずに努力を重ねる中に道が拓け、大きな実りをつとむという素晴らしい伝統が、凝縮されているように感じました。今日の在校生を見て、授業に部活動にと日々熱心に取り組んでいます。そのプライドと努力を守り育てていくことを使命であると肝に銘じ、教職員と共に励んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

またその生徒たちの指導に前向きに、そして親身になって取り組んでいる先生方を見るにつけ、先輩である同窓生の皆様が築いてきた伝統を次の世代に引き継いでいけるよう、多彩で多様な活動がそれぞれの目的を果たせるように、努力してまいります。生徒の活動が実り多いものとなりますよう同窓生の皆様からの一層のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

平成28年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長

植村 八潮 (昭和49年卒)

年に一度、この「同窓会だより」が届くことで、二月一日の「春の同窓会」を楽しみに思い出す人も多いかと思えます。例年同様、建国記念日に開催される平成二十八年「春の同窓会」は、昭和四十九年の卒業生が幹事です。

慣例なので出席された方はご存じのことと思いますが、六〇歳の還暦を迎える代が幹事を仰せつかります。

私たちの同期会は「49会」と称して、船橋を中心とした会場で、思い出したように開催されてきました。ちょうど一年前、久々に集まるから来ないか、という電話で参加したが、事実上の幹事会発足を足会でした。そこで因らざるも実行委員長を引き受けさせていただきましたが、委員長や代表とは無縁の高校三年間だっただけに、何か面映ゆい気持ちでいっぱいです。

一度だけ、学内試験でトップになったことがあります。それも入学直後の最初の実力試験。学年四百九人中四百九番、つまりビリから数えて一番です。いつぱんで有名になって高校生活をスタートしました。そんな成績不良者が、今では大で学生に教える立場です。四十五年間の歳月を感じるとともに、お陰さまでよりから委員長に上り詰めることができました。

幹事一同、高校時代のキャラクターを發揮して、ワイワイ盛り上がりながら準備万端に取り組んでいます。日時は例年同様ですが、会場が船橋駅北口「船橋ランドホテル」に変わります。新しい会場で多くの皆様をお迎えできることを楽しみにしています。

船高の歴史 (三〇)

新制高校への出発

小川 信 雄 (元千葉県立千葉高校 教諭、一九六三年卒)

旧制県立船橋中学校時代の一九四六〜四八(昭和二一〜二三)年を前後する時代は戦後改革によって教育にも民主化の波が及んだ。四六年、内閣に教育刷新委員会が作られたが、四七年になると民主的な教育制度を定めた学校教育法が公布された。四月から五三制が実施され、新制中学校が発足した。さらに教育基本法が公布され、平和と民主主義の根柢は教育にあるという理想を掲げて、教育の機会均等、男女共学、教育に対する公権力の不当な介入の禁止などが盛り込まれた。四八年には各都道府県と市町村に公選による教育委員会も設置された。

この時、学校教育法による新制高校の設置には多くの問題があった。後期中等教育を担う新制高等学校は当初、旧制高等学校程度を基準とするとされた。しかし、旧制高等学校の教員や設備などの水準をこの新制高校において維持することは無理であった。四八年の「新制高等学校設置基準」では高校は旧制高等専門学校程度を「恒久基準」とされたが、それは緩和されて、五年三月まで旧制中等学校程度を「暫定基準」とすることになった。この結果、全国的に「暫定基準」によって、旧制中学校を新制高校へと編成替することが定着する結果となり、五〇年の旧制中学校廃止と学校教育法改正によって、「新制高等学校」(三年、定時制四年以上)の制度が定着した。

したがって、新制高校としての県立船橋高等学校は四八年に発足し、新制高校三年課程が未履修になる学生に対する併設中学校も設置された。この教育制度の変化に旧制の県立船橋中学校の教職員はどのように対応したであろうか。当時の記録資料から、その議論を紹介してみよう(表記はほぼ今と同じであり、理解しやすいためである)。

まず最初は四月十七日の職員会議である。同月一三、一四日に東京都立第一中学校(注 現在の都立日比谷高等学校)で東京都と関東諸県の校長四〇〇余名を集めた文部省主催の会議が行われ、出席した教員から報告が行われた。

「新制高等学校の実施に就いて、及びその見通し、結論」文部省としてはしっかりと見通しを持っていない。

○連合国の要望もあり、日本民主化の基礎としてどうしても実施は必要であるし政治的ゼスチャーもあることを各課長も認めた。然しこの新学制実施は年次的に実施するといふ点に於て連合国と折衝した様なわけでは仲々困難で、新制中学は三万人の教員不足であり、設備の予算はないといふ様な訳で仲々苦しいことである。

うが、結果からいふと、世界に好影響を与へてゐる。実際、教育的効果が上がるかどうかは、今日の我々の責任にある。熱意と自覚を要望(文部大臣)。

○高等学校は二三年度より実施する(文部省案)。然し実施には難色を示してゐる。新制中学が発足した以上、これを充実せねばならない。その上更に高等学校となるに非常に国家的に困難。大会決議として昭和二三年度よりの実施を要望したが、文部省の腹はすわつてをらず、要は国民の輿論の問題であり、それなくしては実施は困難である。故に万難を排しても実施せねばならないといふ輿論を喚起して欲しいとのことであった。

○日高(文部省)局長談
旧制中学の六割は高等学校とし他は新制中学とする。私見として発表したのが他の課長も皆さういふことを述べたので文部省の腹はその程度らしい。(1)校舎は②設備もある③教員の問題。理想は全部(旧制)高等教員(注)と同程度の能力でなければならぬ。然しそれは不可能。現中等学校教員に仮免許状を与えらる。然らばそれは後で取りあげるかといふと決してさういふことはさせない(日高局長)。然し別に今のところ高等学校実施の困難はない。どうしても(昭和)二三年度から実施せねばならない。

○高等学校の程度
(教育)刷新委員会の考へ方が現状を離れてゐる。高等学校といふ名にとらはれてゐて現制(度)の高等学校の程度を必要とする(注)といふ考えである。文部省としては従来の高等学校の一年生程度の力がつけばよい。将来二年生程度の力がつけば結構であろう(大田高等教育部長)。

○基準委員会? 高等学校の基準を決定しつつあるが、その基準は低いところにをき数年のうちに充実出来るやうにする。

○教科書などもなかなか間にあはないと思ふが教材は各学校にまづ、それをプリント等にして授業を進める外はないと思ふ。

○高等学校の認定は県知事に於て行ひ土地の輿論は相対的に認める。

なども職員会議の議題となつてゐる。つぎに新制高等学校への準備過程について、同年一〇月二日の臨時職員会議の内容を紹介してみよう。

一、校長会議の模様を織り込み、左の通りの事項につき話あり
・新制高校昇格は来年度は特別に最低標準によつて許可される。本校も許されるであろう。
・倉庫移築四教室増築の件は近く許可がある筈。

・(注) 新制高校設置の資金不足を補う) 資金寄付は十分なる成果を挙げてゐない。先生方の活動を期待する。未納者へは実行委員を通じて督促する。
・耕地買収問題も困難をつづけてゐる。
・夜間部の存置は未定。今までの学校をなくすることは面倒故、夜間部設置と共にその中に夜間部を融合する様になるであろう。
・県では定時制高校をあらゆる高校に附属せしめる意向。夜間部のある学校はよいが、他の学校では附設困難の由。

・夜間部授業に対する手当改善につき県へ申請せる処不結果に終わった(当任六名でやるべきものと会計課では主張。夜間部教師が昼間部へ出て昼間手当といふものはあるべからざること)。
・本校でも教員を昼夜二部に分離したいと思ふが、一学級づつであるから融通が利かず、すべてに困難を伴ふものと思ふ。

・夜間部の電灯問題につき各先生より意見の開陳あり。結局電灯会社と募金の交渉を為して、その上、県より視学官の視察を願出るといふことにしたいと決定。

ここでは、県立船橋中学校は四八年から新制高校へ昇格すること、教室や校地が新制高校となるには手狭で、その問題の解決を図つてゐるが、寄付金の集まりは不十分であるなどの事情などがわかる。注目したいことは県当局が新制高校になつて定時制高校の設置に積極的であることであるもの、施設・教員配置などへの施策はまづたくなかつたといふこと。

こうして一九四八(昭和二三)年四月一日、新制高校としての千葉県立船橋高等学校が発足した。教員定数は二名増員され、三名、定時制の教員は一名を要求した六名しか認められず、主に夜間を担当することになったが、不足人員は全日制の担当教員の兼任で補つたものとされたのである。

(本稿の記述は「千葉県立船橋高等学校七〇年史」編纂の際に収集した資料による。)

わが同窓



大谷 宗子

(昭和54年卒業)

美しい丘がたくさんあるテキサス州オースティンの郊外にあるヒル・カントリーへ、10月半ば演奏旅行へ出かけた。プログラムのテーマは「アメリカ・アメリカン・カントリー」。曲目は、ドボルザークの弦楽四重奏「アメリカ」、そしてアメリカの作曲家ビーター・シッケルによる「アメリカン・ドリーム」である。まさにこのテキサスのヒル・カントリーそのもの。

美しい景色をひとりひとりの目に、心に、思い浮かべさせるような曲だ。演奏会の後、とても温かく迎えてくれたお客さんひとりひとりと握手をかわし、本当に心と心を通じたような気持ちになった。

10月25日の締切に間に合わせようと、30年ぶりに日本語のエッセーに挑戦。ニューヨークの自宅で書いている。はつきり言ってきた日本語を書く機会がなくなっている今では、同窓会だよりのために書くことはとても光栄ではあるが、とてもつたない日本語が恥ずかしく、躊躇せざるをえなかった。しかし、過去約30年を振り返り書き始めると、とても楽しく、懐かしい思いで一杯になった。

今年5月に、思い切って同級生の東郷まどかさんと私のグループ、カサットカルテットのみんなまで母校である船高へ行き、

大谷宗子略歴

桐朋学園大学では江藤俊哉氏に師事、その後、ボストンのNew England Conservatoryでは、潮田益子、Louis Krasner両氏に師事。現在、コロンビア大学などではLewis Kaplanのアシスタントとして、ザルツブルグではモーツァルトサマーフェスティバルで教鞭をとっている。Cassatt String Quartetの第一バイオリニストとして、ヨーロッパやアジアを始め、アメリカ、カナダ、メキシコで活動している。

オーケストラ部の生徒達と共に演奏した。35年前の高校生活がとても懐かしく、本当に目の前に戻ってきたような感じであった。と同時にとても感謝の気持ちで一杯になった。

30年間のアメリカでの音楽活動。今になって思うと、色々な方々の支えによって出来た活動だ。江藤俊哉先生、バーンスタイン、小澤征爾先生、ボストンシンフォニー、潮田益子先生、レイ・クラズナー先生、東京カルテット、ジュリアードカルテットなどなど、書き出したらきりがない。その中でも、船高で出会った先生方、同級生、オーケストラの先輩及び後輩、顧問の先生方・・・船高の全てが私のアメリカ生活の土台になったと思う。

アメリカン・ドリーム？ 米国立図書館所蔵のストラディバリウス

アメリカ議会図書館のコンサートシリーズで演奏する機会があった。図書館の事務所から、所蔵のストラディバリウスで演奏をしてみないかという打診があったのだ。楽器は自分の好きなものを十数台のコレクションから選ぶことができ、カサットカルテット全員が貸してもらったことにした。ス

トラディバリウスは素晴らしい楽器だが、弾きにくいことでも有名なのである。

図書館の中だけでの使用という条件の中、5〜6時間のリハーサルで演奏会を迎えた。弾けば弾くほど音が伸び、演奏会が終わる頃にやっと、貸してもらった楽器に慣れたような気がした。2時間の演奏会だったが、10年間分位の経験をしたような感じだった。

本日のアメリカン・ドリーム？ ホームレスの高校生

過去10年間、カサットカルテットで第二バイオリンを担当しているジェニファーの母校、テキサス州にあるパーム・アンハイム高校で、カサットカルテットは室内楽を中心にオーケストラの指導をしている。

この地方はオイルの町であり、ジョージ・ブッシュアメリカ前大統領のホームタウンでもある。昨年頃までは、オイルブームで16歳、17歳の男子高校生までもが1〜2年休学してオイルの仕事をしていた。聞くところによると、年間5百万円から1千万円の収入だとか。しかし、アルコールやドラッグ中毒になり、中・高校を卒業することができないでいるという、信じられない状態だ。

地元のオーケストラの先生の話によると、チェロのリーダーとして弾いている男子学生の家族は全員ホームレスであり、フードバンクの助けでやっと学校に通えている状況だという。本当にオーケストラどころの話ではない。しかしそれを乗り越え、卒業時、成績がトップの学生に与えられる称号であるパラビクトリアンの候補になっているという。本人の話によると、チェロをオーケストラや室内楽のグループで弾くことにより、自分の中心を保っているとか。



オーケストラ部演奏会 (1976年たちばな祭)



Cassatt String Quartet (左端が大谷さん)

この学生と、彼の夢―大学を卒業し、世界に役に立つ人間になっていくこと―について話すことで、アメリカン・ドリームという言葉が思い出した。何か大きなこと―有名になることか、大金持ちになるとか―のイメージがあったが、もしかすると、アメリカン・ドリームとは、素直な、他人の事を思いやり、責任感のある人間になっていくことなのかと思いはじめた。音楽がその道への橋渡しになっていく可能性があることに気がついた。

私のアメリカン・ドリームとは、今まで自分に頂いてきた支えを次の世代へ渡していくことなのかもしれない。

2015年10月23日
ニューヨーク自宅にて

恩師探訪

山本敬久 先生



私が初任教員として船橋高校に着任したのは一九七一（昭和四六）年四月のことでした。それから一〇年間勤務し

て異動した後、一七年後の一九九八（平成一〇）年から再び教頭として三年間勤務しました。私にとって船橋高校は合わせて一三年間お世話になったかけがえのない職場です。

私が教員になった頃、全国の高校は学園紛争の只中でありました。東大や日大の紛争が千葉県の高校にも飛び火して、折からの成田空港建設をめぐる三里塚闘争と結びつき高校生の政治意識は極めて高いものでした。三里塚のご真ん中に船橋高校のネームが入ったテントが張られていたこともありましたが、船高の体育倉庫から持ち出されたものでした。

そのような状況の中、社会科教員としていきなり専門外の政治・経済を担当することになり大変苦労したことが昨日のこのように思い出されます。三年生の政経の授業中「ナンセンス」の罵声を浴びたり、授業内容に不満な生徒が放課後、仲間の生徒たちを引き連れて研究室に押しかけてきて私を取り囲み、何時間も糾弾されるという体験もしました。

しかし、このような厳しい洗礼は後の私

の教員生活にとって得難いものとなりました。この体験により生徒一人ひとりが授業に向けて真剣さを肌で感じたことが、高校教師としての基礎を形成する上での重要な契機となったからです。

教諭として在任した一〇年間に、担任として二つの学年を三年間持ち上がりで卒業させましたが、一九七五（昭和五〇）年に初めて卒業させた学年の皆さんとは現在も親しくお付き合いしています。そのきっかけは、私が二〇〇五（平成一七）年三月に定年を迎えた時、三年時に担任をしたF組の諸君が、山本の最後の世界史の授業を船高の三年F組の教室で実現させようと企画して学校側と交渉してくれたことにあります。この情報が口コミで拡がり受講希望者が増えてしまったため、当時の校長川名博志先生の取りはからいで南館の第一会議室をお借りして、五月下旬の土曜日の午後に授業を実施することが出来ました。この時の講義内容は「アンリ四世とモンテニユ」と題して、フランス・ブルボン朝の創始者アンリ四世の寛容思想形成に与えたモンテニユの影響、そしてアンリ四世が狂信徒に暗殺された後の葬儀の様子に関するものです。かなりマニアックな内容にもかかわらず、六〇名を超える人たちが熱心に聴講してくれたことに大変感動しました。一〇年近く授業から遠ざかっていた私を教師としての原点に立ち戻らせてくれた

からです。そこで、彼らへの感謝の念を込めてその年の秋に谷中・千駄木・本郷にかけての史跡を巡る歴史散歩を企画しました。続けて「本所・深川」「新橋・愛宕・麻布十番」「千葉市南部」など都内や県内各所の散歩を毎年実施して現在に至っています。なかでも思い出が深いのは三年前の春に実施した「船橋散歩」です。

この散歩は船橋高校の卒業生として地元を見つめ直してほしいという思いから企画しました。船橋高校を出発点として、船橋大神宮・船橋御殿跡などを経て海神念仏堂に至るコースは見どころが多く、四月の冷たい雨が降る悪条件にもかかわらず、参加者からは大変好評でした。とりわけ船橋大神宮では、参加者のひとりM君の親族が氏子総代を務めている関係で、普段は入れない灯明台の中や船橋高校創立数年後に校舎として使用された神宮客殿の近くまで入れたのは何よりの体験でした。

船橋高校ではサッカー部とオーケストラ部の顧問を務めました。オーケストラ部の顧問としての思い出は色々ありますが、特に一九七七（昭和五二）年七月に開催した第一回定期演奏会が記憶に残っています。当時の船オケの活動は、六月のちびな祭など校内に限られていましたが、OBたちの後押しもあって船橋東部公民館で初めての定期演奏会を開催することが出来ました。その時の二年生でコンサートマスターを務めた大谷宗子さんは、その後音楽大学に進み、さらに米国に留学して現在ニューヨークを拠点として活動する女性だけの弦楽四重奏団の第一ヴァイオリン奏者として活躍しています。

大谷さんが主宰するカサット四重奏団が今年の五月、北京における現代音楽祭に参

加した後、成田経由で帰来する際に、母校の後輩たちの前で演奏したいという相談を受けたのは昨年秋のことでした。微力ながら学校側との折衝に当たらせていただき、この度カサットQと船高オーケストラとの交流演奏会が実現したことを何よりの喜びとしております。筆を置くにあたり、まもなく創立百周年を迎える船橋高校のますますの発展と、同窓会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



事業報告2015

報告とお知らせ

●春の同窓会会場が変わります
本年度の総会は8月2日母校にて開催されました。

また、春の同窓会会場の変更が決定しました。恒例の「春の同窓会」、選歴を迎える同窓生が幹事学年となるこの行事もすっきり定着、リピーターが増え続けています。

す。来年は船橋グランドホテルで目にかかりましょう。この同窓会だよりでも春の同窓会をご案内しておりますが、くれぐれも会場変更をお忘れなく。

ホームページとメールアドレス変更

同窓会のホームページがリニューアルしています。まだまだ運用の初期段階という感はありませんが、母校創立100周年に向けて一層の充実を図りたいと考えています。

●意見 参加者 学年理事を募集

重ね重ねのお願いとなります。創立100周年記念事業に向けたご提言、同窓会として何ができるのか、何を後輩に引き継ぐのか、皆さんのお考えをお寄せください。

また、同窓会では毎年11月第二火曜日に「同窓会ゴルフコンペ」を開催していますので、奮っての参加、お待ちしております。

そして、学年理事の選出のお願いです。今年には新たに昭和59年、60年、61年、平成元年卒の理事が誕生しましたが、昭和56年、63年、平成3年以降(殆どの学年)で未選出となっております。

平成26年度決算及び平成27年度予算

1. 収入の部

Table with 4 columns: 科目, 27年度予算, 26年度予算, 26年度決算, 25年度決算. Rows include 繰越金, 一般会計, 会費, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 4 columns: 科目, 27年度予算, 26年度予算, 26年度決算, 25年度決算. Rows include 会議費, 必要費, 後援費, 雑別及び慶弔費, 春の同窓会費, 会報及び広報費, 子備費, 繰越額, 合計.

部活動報告

水泳部 顧問 南部 健

水泳部は、現在男子36女子16の部員が在籍し「水と水泳に」なる」を合い言葉に、水泳を通じた人間形成を主眼として日々活動しています。

今年度は、水球男子がシリーズ最初の公式試合の県高校選手権で優勝(14年ぶり4度目)の栄誉に輝いたのを皮切りに、前年の新人大会の成績により、関東選抜(春関東)に出場し、その後続いた県総体では3位となり、7月関東高校(1日関東予選、夏関東)に千葉県代表として出場しました。

を勝ち進み、1日(大阪)の切符を懸けて明大中野(東京)と対戦しました。同校とは以前練習試合30点差で負けており、厳しい戦いになることが分かっていたので、チーム一丸となって全力で挑みました。

もちろんのこと、仲間との絆を深め自分の限界に挑戦し精神面でも大きく成長したと感じます。同じプールで汗流し成長し感動して終えられたことが一番ではなかったかと思えます。偶然ながら水泳部創部50周年を迎える年に好成績を残すことができて県船パワーを得た感じます。

細を報告させていただきます。高校選手権は、通常は3週に渉りリーグ戦形式で行われますが、県船は前年新人戦2位の成績でスーパーシードとなり最終日の順位決定トーナメント

浦柏高・幕張総合高とほとんど僅差の試合展開で何とか3位を死守し夏関東への切符を手に入れました。7/24(東京)体育館での夏関東は、これまでの経験が活き初戦から落ちていてブレイク1回戦2回戦

2年半前に入部した今年の3年生には水球経験者は一人もおらず中には泳げないものもいました。多くの先輩方や家族のサポートをいただきつつお互いに励まし高め合いながら部活動に取り組んだ成果が今回の結果につながったのではないかと思います。県船水泳部の良さは自主性を重んじた主体的な活動にあります。

画を立て実践し、日々の反省をもとに修正計画を立てた実践しと、積極的な毎日を送っていました。身体技術的成長は



おたより彼れ是れ

●柳本 勝(昭和42年卒)

我々が卒業した頃は北側には木造校舎南側に鉄筋校舎が1棟で、今ある体育館も2棟目の鉄筋校舎もありませんでした。船橋に寄った折には訪ねて近くを散策したいと思っています。

●伊藤 正子(昭和37年卒)

同窓会だより、なつかしく嬉しく読ませて頂いております。また、テレビ番組に「県船橋」の名が載っている「頑張れ！船高」と後輩達をついつい応援してしまいます。

●酒井 将和(昭和34年卒)

電車で制服姿を見ると懐かし、つい話したくなってしまいます。他の学生と違い真面目ですね。56年前の姿を思い出させてくれます。今は、健康に注意し、無病息災を心がけております。母校の活躍を願っています。

●中西 征一郎(昭和32年卒)

バレエボール部OBでメキシコ大会(オリエンティック)銀メダリスト、白神君が2014年3月に亡くなりました。70才です。同窓でもオリエンティック代表が居たことをご存知ない方が多いと思います。

●緑川 和芳(旧姓吉村)(昭和43年卒)

福島に住んで35年になりました。今は県認定の「福島ふるさと案内人」として頑張っております。同窓の皆様にはいつまでも「フクシマ」のことを忘れていて下さい。機会がありましたら是非一度福島を訪れてみて下さい。

●堀江 一夫(昭和34年卒)

同窓会だよりが届く度になつかしい名前を拝見します。小生故郷を離れて、50年余り、育った実家も既になく、ここ、愛知県刈谷市に住んで40年、それ以前の流転の人生も、ヨットクラブの人に囲まれながらそろそろ終りかなという今日この頃です。

●長尾 一範(平成17年卒)

転職先に船高剣道部の先輩が勤めていた事をfacebookを通して知り、それを知った船高出身者を探したところ、なんと8名も見付かりました。社内同窓会として飲み会を開催、さらに社内運動会でチームを組む計画も進行中です。年代も性別も部署も役職も違うメンバーが、船高卒という共通

点でつながっています。今後もメンバーや、活動の幅をさらに広げていきたいと思っております。

●林 直樹(昭和58年卒)

野田元総理の輩出、スパーサイエンススクールへの選出、高校生クイズでの活躍など、母校に改めて誇りを感じ晴らしも多くなりました。ますます素晴らしい高校になることを心から祈っております。

●千田 宏一(昭和35年卒)

「同窓会だより」の校章を見て元気が多くなりました。なつかしくもあり、想い出が多かったです。船高の、高あハイザイです。

●前仲 太恵子(旧姓小野)(昭和62年卒)

ふなっしーの活躍により、北海道の方に、船高のことを話す機会が増えました。(笑)

●酒井 祥有(昭和32年卒)

1、2年度、会に出席のみでぶさたばかりでした。同窓会だよりを拝見し、剣道部の活躍をうれしく拝見しました。33年に創部し、キャプテンをさせていただきました。(当時顧問は堀部先生)益々のご発展を心より祈念いたしております。

●宮道 尚子(旧職員)

船高にはわずか6年お世話になりましたが、楽しい思い出がたくさん、たくさんあります。すばらしい生徒の皆さんと出会えたこと、心から感謝いたします。

●内田 輝男(昭和55年卒)

長男が昨年船高に入学し、入学式、土曜日のオープンスクール、たちはな祭など何度か船高の校舎内に入る機会がありました。34年経っても変わらない所も多く、懐かしかったです。

●職森 敦子(旧姓恒元)(昭和52年卒)

職場での回覧「VIEW21(4月号)」の表紙の写真に船高が掲載され、嬉しく思いました。

●小林 裕(旧職員)

現在、私は、小林国際交流研究所研究員と称して、気軽に、海外旅行楽しんでおります。ハワイ、中国(江南地方)、韓国(チェジュ島)、トルコ共和国を訪問し、台湾を一周しました。また、中央大学学生会(同窓会)東京江戸川区支部の副支部長を務めています。

●田中康秀・田中芳恵(旧姓山)(昭和46年卒)

世の中が、あまりに殺伐としていて哀

しくなります。せめて、私たちのまわりの人達が心豊かに、おだやかに生きていけますように、笑顔と、やさしい言葉をかけ合うようにしていきたいと思いが、くらしにしております。

●西川 哲哉(昭和59年卒)

クラス会を拡大し、今年(2014年)、クラスを越えた同窓会を行い、卒業以来の懐しい友人に再会することができました。同窓会には1度もいづつか、昭和59卒の皆と大挙して「春の同窓会」に出席できたら楽しいな、などと考えております。

●近藤 久夫(昭和29年卒)

来年(平成27年)は、我ら第6回卒業生の多くが80歳の節目の年を迎えます。すでに鬼籍に入られた方も多くなり淋しくなりつゝありますが、残った者同志、健康に留意し更なる長命を目指し、頑張ります。

●畑中 憲(昭和60年卒)

緊急告知！あの橋祭で上映し、大絶賛をうけた私が監督した不朽の名作8ミリ映画「ブッシュマンの青春(完整版)」のフィルムを原簿が行方不明です。誰か所在を知りませんか？あれば私達の青春の全てです。あの私達の青春のみみずみ姿をもう一度みたい！ぜひ60卒の同期の方、探して下さい。そしてもう一度あの名作をみて笑い、涙しよう！お願いします！

●海老原 孝司(昭和43年卒)

最近温泉・キャンプと野山を巡り、カヌーで水とたわむれ、野菜作りにと親しみ、歌舞伎・文楽鑑賞で伝統文化に触れ、毎晩暴飲・暴食にいそむ。と言った楽農生活を送っております。

●廣川 多恵子(旧姓三代川)(昭和46年卒)

佐藤豊先生の「教室の前後をそっくり入れ替えるいたずら」がありました。青春はそんなこと。今日では変わった教室ですね。と普通に授業なされた物理の先生。後からお聞きしたら「あの時は怒鳴ってやろうかと」と。青春の一幕を思い出させていた、まました。

●須合 賢一(昭和61年卒)

先日、大学の同窓会で船高卒の友人とも会うことができました。又会社でも一まわり以上年が離れた後輩が船高卒

というところで、母校を感じた一年でした。

●久保 和秀(昭和44年卒)

同窓会だよりの編集に携わる皆様、有難うございます。現在は、地元、剣道連盟で小学生、大人まで竹刀を交えています。いずれ機会があれば船高の現役剣道部の皆さんと竹刀を交えてみたいと思っております。

●宮本 恭子(旧姓市村)(昭和55年卒)

先月、11月15日(土)に4年ぶりの55年卒同窓会の幹事をやりました。卒業後35年ぶりに会う面々、懐しく、楽しかったです。4年に1回ならまた、幹事してもいいかな、と思いました。船高万歳！

●松田 桂子(昭和34年卒)

先日(10/25)クラス会にてなつかしい船高へ行き10名の方々にお会い出来楽しく過ごしました。同窓会には1度も出席していませんが同窓生の活躍を心より祈っております。お世話有難う御座ります。

●奥永 俊哉(昭和58年卒)

毎年末に頂く同窓会だより、今年も嬉しく拝見しました。「船高の歴史」を寄稿されている小川信雄先生には、高2(昭和56年度)と高3(同57年度)に世界史と日本史をご教授頂きました。文面を拝見し、当時の授業を思い出しました。いつまでもお元氣にお過ごし下さい。

●杉崎 嘉代子(旧姓齊藤)(昭和38年卒)

29年間続けた子育て支援のボランティア70才で定年になりました。元氣なので高齢者支援のボランティアを何か出来る事があるか探しております。

●齋藤 秀仁(昭和43年卒)

節目の65歳となり同級生と久々に再会し楽しんでます。G組の同窓会をぜひ実現して欲しいものです。仲間と遊ぶリゾートもシニア料金。年を取っていい事もありますね。

●橋原 絹代(旧姓鈴木)(昭和49年卒)

気がつけば来年は還暦です。青春ははるかに遠くなりました。高校周辺もかなりかわってしまっただろうです。グーグルで見られるというの時の流れを感じます。

●岡崎 利英(昭和32年卒)

76才になりましたが、テニスに登山にと人生を楽しんでいます。船高の益々の発展を祈念しています。

●青山 孝子(旧姓鈴木)(昭和49年卒)

20代の頃から、折にふれて習ってきた太極拳を練習するのが楽しいです。まわりを見渡すと高齢な方が多く、そこでは一番若い方なとも嬉しいです。

●小谷野 俊夫(昭和40年卒)

大学教員を定年退職した後は自宅で経済英書を翻訳しています。26年には「アダム・スミス」と「ケインズ」を出版しました。難しい英文に取り組んでいる時、船高の英語の時間に故宇津木先生に「おばあさん」にもわかるように訳せといわれたことを思い出しています。

●國枝 喜美雄(昭和35年卒)

馬齢重ねて早や終活準備。1年が年々早く感じますが気持は船高時代と変わらず変わるは鏡に写る姿。嗚呼、「光陰矢の如し」とは良く言ったもの。「日々是好日」で頑張ります。

●野口 紀雄(昭和26年卒)

それまでは不定期だった同期会は08年から毎年続いていて、昨秋も恩師須田義男先生を囲み15人が集まりました。先生は「僕が白寿を迎えるとき君たちは半寿を迎えるのをお祝いしてあげると」逆に励まされてしまいました。白寿者が6万人に迫ろうとしている昨今、頑張りたいと意を強くしました。



平成二四年四月に母校に赴任して、同窓会だより編集のお手伝いも四回目となりました。毎回苦労するのは、「わが同窓」と「恩師探訪」の執筆者を決めることです。同窓生の皆様からもご推薦をいただければいいなあと、案をすることを考えています。自薦他薦問わず、皆様からのご連絡をお待ちしております。なお、普段は授業等生徒との関わりに時間を費やしていますので、お電話によるご連絡への対応はできないことが多いです。同窓会関係のご連絡は、webサイト「http://www.dosokai.jp/kenma/gu」のお問い合わせページや電子メール「funaobg@gmail.com」または「funaobg@funaobg.com」または「funaobg@funaobg.com」426-0422でお願います。皆様にご満足いただける同窓会だよりを目指して、皆様のご協力をお待ちしております。(昭和五六年卒) ○